

旧約聖書における子ども理解

——創世記 21:9-21 を通して考える——

井 上 智

1. はじめに

本稿は、関西学院大学神学部において例年 11 月に行われる人権に関する発表を原稿化したものである。関西学院大学神学部神学研究会における人権に関する発表については、過去の論文を参考にさせていただきたい¹。

人権に関する発表を行うに際して、筆者の研究テーマである旧約聖書の子ども理解と結びつけ、今回のテーマを「子どもの人権」とした。なぜなら、子どもの人権を考えるとすることは、子どもがどのような存在であるかを理解する必要があるからだ。

このことを明らかにするために、創世記 21:9-21 を取り上げ、旧約聖書における子ども理解がどのようなものであるかを探りたい。この箇所はハガルとイシュマエルについて記される小さな物語ではあるが、この物語の中には、ヘブライ語が一般的に表す「子ども」として 2 つの用語（ナアル、イエレド）が用いられている。後述するが、この 2 つの用語が明確に使い分けられているからである。

そこで、私たちはまず、創世記 21:9-21 を取り上げ、そこで用いられている特に עַרְוֹ וְיִלְדָּו という用語がどのように旧約聖書で用いられているかを確認し、改めて創世記 21:9-21 の物語を読み直し、その読みがどのように変化するのかを検討してみたい。

2. 創世記 21:9-21 について

この物語はアブラハム物語の中の一つの物語である²。文学単位を設定する際の論点として、大きく①21:1-21、②21:1-7 と 21:8-21、③21:1-8 と 21:9-21 とに分けること

1 岩野祐介、2018: 93。橋本祐樹、2020: 67-69、など。

2 アブラハム物語の始まりと終わりに関する議論については、水野隆一『アブラハム物語を読む』新教出版社、2006 年、28-29 に詳しく述べられている。

ができる³。この違いは、この物語を誰に属するのか、イサクなのかイシュマエルなのかという点である。つまり①と②はこの物語全体がイサクのものであり⁴、③はイシュマエルのものであると言えよう。水野は修辞批評を用い、アブラハム物語全体が囲い込みで構成されていることを明らかにした⁵。特に、サラからの子どもの誕生を中心にイシュマエルの誕生と追放が対になっていることを示し、イシュマエルの誕生(16章)、サラからの子どもの誕生(17:1-21:8)、イシュマエルの追放(21:9-21)であると⁶。このような点から、創世記 21:9-21 を文学単位としてここでは取り上げることにしたい。

また、資料仮説において、この部分は E 資料からなっていると考えられる。この点は多くの研究者が一致しているところである⁷。

それでは次に、この物語の直訳を行いたい。直訳とする理由は、物語の人称、流れ、ヘブライ語独特の構造を明らかにするためである。

2.1. 創世記 21:9-21 直訳的私訳

創世記 21:9

וַתֵּרֶא שָׂרָה אֶת-בְּנוֹ-הַגֵּר הַמִּצְרַיִת אֲשֶׁר-לָגָהּ לְאַבְרָהָם מִצִּדְקָה׃

サラは見た、エジプト人ハガルの息子（ベン）を。彼女は産んだ、アブラハムのために。彼は遊んでいた。

サラはイシュマエルの名前を徹底的に排除している。イシュマエルという名前は一度も出てこない。しかし、物語の流れから、エジプト人ハガルの息子がイシュマエルであることを私たちは知っているのだから、この人物、すなわち、エジプト人ハガルの息子、彼女がアブラハムのために産んだ子が、イシュマエルであると同定できる。

וַתֵּרֶאは動詞וַתֵּרֶאのピエル語幹分詞形である。動詞カル形だと、この言葉は「笑う」などのポジティブな印象を持つ言葉であるが、ピエル形だとネガティブな印象となる⁸。そもそも動詞ピエル語幹は旧約聖書の中で7回しか用いられていない(創 19:14、21:9、26:8、39:14、17、出 32:6、士師記 16:25)。LXXでは、この動詞の後に「イサクと共に」という言葉を入れることが提案されている。水野は、ピエル語幹分

3 ①とする研究者は、Goldingay、ギブソンらがあり、②とするのは、Wenham、ヴェスタマンら、③とするのは越後屋、トリプル、水野らがいる。

4 特に②について、21:1-7の内容はイサクの誕生であり、21:8-21はイサクの乳離れの儀式から始まるイサクとイシュマエルの物語となり、イシュマエルは物語の中心から少しずれた位置に追いやられる。

5 水野、2006: 30。

6 水野、2006: 30。

7 ただし、創世記 21:21 a は JE である。(越後屋、1996: 59)

8 Goldingay, 2020: 82

詞形で目的語がないこの場合は性的な意味合いを含み、「自慰しているのを」と訳す⁹。また、この部分は、戯れていた（月本訳）、遊んでいた（関根訳）、からかっていた（越後屋訳）など、多様な訳が存在する。しかし、7回用いられている文脈をみると、どちらかというに性的な意味合いを含んでいるようにも思える。私訳は「遊んでいた」とした。性的な意味合いを含んでいるとしても、悪意のある遊びであっても、和気藹々とした遊びでも、イシュマエルの存在がサラにとって名前を呼ばないほどの陰悪な状況にあることは変わらないため、性的な意味合いとしてでも、悪意のある遊びでもどちらでも想像ができる余白を残した。また、LXX が提案する目的語「イサクと共に」を挿入せず「遊んでいた」とした。

創世記 21:10

וַתֹּאמֶר לְאַבְרָהָם גֵּרָשׁ הָאֵמָה הַזֹּאת וְאֶת־בְּנֹתָהּ כִּי לֹא יִירָשׁ בְּנֵי־הָאֵמָה הַזֹּאת עִם־בְּנֵי־עֵצָקָם׃
そして彼女はアブラハムに言った。追い出せ、この女奴隷とその息子（ベン）を。なぜなら、この女奴隷の息子（ベン）は、私の息子（ベン）と共に引き継ぐべきではないからだ。

גֵּרָשׁ はピエル語幹で 35 回用いられている（創 3:24、4:14、21:10、出 2:17 等）。たとえば創世記 3:24 は樂園からの人間追放の場面、4:14 はカインの追放など、住んでいる場所だけでなく職業からの追放（列上 2:7 等）などでも用いられているかなり厳しい言葉だと言えよう。

יִרָשׁ はカル語幹で 161 回用いられ、家を継ぐ、土地を継ぐ、敵のものを受け継ぐ（城壁や門など）時に用いられている。つまり、サラは具体的な何かを引き継ぐべきではないと言っているわけではないが、この言葉が用いられていることから、アブラハムの家や財産といったものをイシュマエルが引き継ぐべきではないと暗示しているのである。

創世記 21:11

וַיֵּרַע הַדְּבָר מְאֹד בְּעֵינֵי אַבְרָהָם עַל אֹלֶת בְּנוֹ׃

そのことは悪かった、とても、アブラハムの目に。彼の息子（ベン）のことで。

ここで用いられている רָע はカル語幹であり 32 回の使用例があるのみである。この言葉は①神の目に悪いこと（創 38:10、申 15:9、10、28:54、56、サム上 8:6 など）、

9 水野、2006: 302、310-312。

②その人にとって都合が悪いこと（創 48:17、サム上 1:8、18:8 等）、③物が悪いこと（詩 2:9、エレ 15:12 等）と使用例を分けることができよう。ここでは②の用例と理解することができる。

創世記 21:12

וַיֹּאמֶר אֱלֹהִים אֶל־אַבְרָהָם אֶל־יִרְעָה בְּעֵינֶיךָ עַל־הַנְּעָר וְעַל־אֲמָתֶךָ כֹּל אֲשֶׁר תֹּאמַר אֵלֶיךָ שָׂרָה
שָׁמַע בְּקוֹלָהּ כִּי בִיצָחָק יִקְרָא לָהּ יִרְעָה:

エロヒームは言った、アブラハムに。あなたの目には悪くない。そのナアルとその女奴隷について。サラが言うことすべて、すべての声を聞け。イサクにおいてあなたの子孫は呼ばれる。

יִרְעָה 旧約聖書中 229 回用いられている。人間の場合は生まれてくる・きた子どもたち全体を指す場合は子孫などと訳されるが個人の場合は子種といったように「精子」を表す場合もある、植物にも用いられその場合は「種」と訳されてきた。12 節はイサクから続く יִרְעָה なので、子孫と訳した。

創世記 21:13

וְגַם אֶת־בְּנוֹתֶיךָ לְגִי אֲשִׁימֶנּוּ כִּי יִרְעָה הוּא:
そしてまた、その女奴隷の息子（ベン）も国に。私は置く、彼を。なぜなら、彼はあなたの種だからだ。

ここでも יִרְעָה が用いられているが、アブラハムとイシュマエルの関係を指していると解したため「種」と訳した。

創世記 21:14

וַיִּשְׁכֶם אַבְרָהָם׃ בַּבֹּקֶר וַיִּקַּח־לֶחֶם וְחֶמֶת מַיִם וַיִּתֵּן אֶל־הָעָרַב שָׁם עַל־שַׁכְמָה וְאֶת־הַיֶּלֶד
וַיִּשְׁלַחַהּ וַתֵּלֶךְ וַתֵּמַע בְּמִדְבַר בְּאֵר שָׁבַע:

そしてアブラハムは起きた、その朝早くに。そして彼は取った、パンと水の革袋を。そして彼は与えた、ハガルに。そして彼は置いた彼女の肩に、そしてイエレドと。そして彼は送り出した、そして彼女は行った、そして彼女はさまよったベエル・シェバの荒れ野を。

訳出上、大きな問題ではないが、この箇所の意味を考える上で大きな問題がある。それは、ハガルの肩に יָלַד、つまりイシュマエルを置いたのかということである。物

語の構成上、イシュマエルは16歳以上であると推察される¹⁰。16歳の少年をハガルは肩車のようなことができたのかということである。この点について水野は曖昧なままの翻訳を提案している¹¹、ここでは、肩に置いたのか、置いていないかは解釈上、大きな問題にはならないので、水野が提案するように曖昧なままの翻訳とした。

שלחを「送り出す」と訳した。Wenhamは、שָׁרַץよりも柔らかい言葉であり、アブラハムは心残りがあるものの、サラの求めによって出て行かざるを得なくなったと指摘する¹²。一方トリブルはこの使い分けは、「園のストーリーの結論では、語り手が神は不服従のカップルを「送り出し(שלח)」「追い出す(שָׁרַץ)」と述べる(創世記3:23-24)。そこでは二つの動詞が意味上重なり合っているように見える。このストーリーでは、サラがアブラハムに「追い出し・・・」と述べ、語り手がアブラハムは「送り出した・・・」と言う。ここでは、二つの動詞は異なる意味を持っている。その違いにもかかわらず、これらの動詞の妥協しがたい働き-「追い出す」で始まり、「送り出す」で終わる-がハガルとイシュマエルを囲み、彼らの運命を決める。園のストーリーでは最初の男性と女性が権威に不服従だったので、ヤハウエが彼らに与えた家庭から彼らを追放した。この物語では、ハガルとイシュマエルが権威に脅威を与えたので、アブラハムが(サラと神の命令によって)彼の家庭から彼らを追放した」と述べる¹³。

創世記 21:15

וַיִּקְלוּ הַמַּיִם מִן־הַתְּהַמָּת וַתִּשְׁלַח אֶת־הַיֶּלֶד תַּחַת אֶתֶד הַשִּׁיקָם:

そして水の革袋が空になった。そして彼女は投げた、その子を。一本の灌木の下に。

שָׁלַח ヒフイル語幹。旧約聖書中 112 回用いられ、いずれの場合もかなりかなりきつい言葉である。物を投げたり(出 4:3、7:9、10、12 等)、遺体を捨てる行為(ヨシユ 8:29、10:27 等)でもあった。そのことが分かるよう、あえて「投げた」とした。

創世記 21:16

וַתִּלְךָ וַתֵּשֶׁב לָהּ מְנַגֵּד הַרְחֵק בְּמִטְטְנֵי קִישָׁתַי כִּי אָמְרָה אֶל־אֲרָאָה בְּמֹות הַיֶּלֶד וַתֵּשֶׁב מְנַגֵּד וַתִּשָּׂא אֶת־קִלְעָהּ וַתִּבְדֵּן:

10 創世記 17:24 においてアブラハムの年齢が 99 歳であったこと、また 25 節においてイシュマエルが 13 歳であったことが述べられる。21:5 においてイサクが生まれたのはアブラハムが 100 歳の時であり、8 節において乳離れの日が祝われている。第二マカベア書 7:27 によれば乳離れは 3 歳であるので、物語の流れ上、イシュマエルは 16 歳以上となる。

11 水野、2006: 302。

12 Wenham、2015: 84。

13 トリブル、2009: 84-85。

そして彼女は行った、そして彼女は座った、反対側に、弓で撃つほど遠くに。なぜなら、彼女は言った、私は見ない、そのイエレドの死を。そして彼女は座った、反対側に。そして彼女は声を上げた、そして彼女は泣いた。

17節を見ると、神は **נַעַר** の声を聞いたと述べられる。このことから、16節で泣いたのは子どもとする解釈もあるが¹⁴、ここでは旧約聖書本文に書かれている動詞は三人称女性単数であることから、この訳を取った。

創世記 21:17

וַיִּשְׁמַע אֱלֹהִים אֶת־קוֹל הַנְּעוּרָה וַיִּקְרָא מִלְּאֵף אֱלֹהִים | אֶל־הַגֶּר מִן־הַשָּׁמַיִם וַיֹּאמֶר לָהּ מִהֲקוֹל הַגֶּר אֶל־תִּירָאִי כִּי־שָׁמַע אֱלֹהִים אֶל־קוֹל הַנְּעוּרָה בְּאֶשֶׁר הוּא־שָׁם:
そしてエロヒームは聞いた、ナアルの声を。そしてエロヒームの使いは呼んだ、ハガルを、天から。そして彼は言った、彼女に。あなたに何が、ハガル恐れるな。なぜならエロヒームは聞く、そのナアルの声を、そこにいる。

16節でも指摘したが、エロヒームが聞いたのはハガルの泣き声なのか、**נַעַר** の声なのか。16節を **נַעַר** とすると天からの使いがハガルに問いかけることもできない¹⁵。よって、ここでは旧約聖書本文の記載にそった訳を行った。

創世記 21:18

קוּמִי שְׂאִי אֶת־הַנְּעוּרָה וְהִסְתַּיְתִּיקִי אֶת־יָדָהּ בּוֹ כִּי־לִגְוִי גְדוֹל אֲשִׁימֶנּוּ:
おまえは立て、そのナアルを起こせ、そしておまえは抱け、あなたの手で。というのも大いなる国民に、私は彼を置くからだ。

創世記 21:19

וַיִּפְקַח אֱלֹהִים אֶת־עֵינֶיהָ וַתִּרְאָה בְּאֵר מַיִם וַחֲלָהּ וַתִּמְלֵא אֶת־הַחֶמְתַּת מַיִם וַתִּשְׁק אֶת־הַנְּעוּרָה:
そしてエロヒームは開いた、彼女の目を。そして彼女は見た、水の井戸を。そして彼女は言った。そして彼女は満たした、水の革袋を。そして彼女はそのナアルに飲ませた。

神が誰かの目を開く行為、この場合は、神がハガルの目を開いたわけだが、旧約聖書中、この箇所を含め3箇所しかない。神以外のものが目を開く箇所も2箇所のみで

14 越後屋、1996: 60。

15 この点については越後屋も同様の指摘を行う（越後屋、1996: 60）。

ある。神が目を開く箇所は列下 6:17、20 節であり、17 節はエリシャの従者の目が開かれ火の馬と戦車がエリシャを囲んでいるのを見ることができるようになった場面である。20 節はアラム軍の目をだまし、主が目を開かれると別な場所に行っていたという場面である。いずれにせよ、目が開かれると、劇的な変化が訪れる。一方神以外のものが目を開いている箇所は創世記 3:5、7 節で、5 節では蛇が女に、実を食べると、目が開かれ、神のように善悪を知るものとなることが述べられる。7 節では実を食べた結果、目が開かれ二人が裸であることを知ることになった場面である。この場合でも目が開かれた結果は劇的な変化といえよう¹⁶。

ハガルの目が開かれた結果訪れる劇的な変化とはいったい何か。このことについては後述したい。

創世記 21:20

וַיְהִי אֵלֶיהֶם אֶת־הַנֶּעֱר וַיִּגְדֵּל וַיֵּשֶׁב בְּמִדְבָּר וַיְהִי רֹבֵה קִשָּׁת:

そしてエロヒームはいた、そのナアルと。そして彼は成長した。そして彼は住んだ、その荒れ野に。そして彼は弓を撃つ者になった。

創世記 21:21

וַיֵּשֶׁב בְּמִדְבָּר פָּאֵרָו וַתִּקְחֶחֱלוּ אִמּוֹ אִשָּׁה מֵאֶרֶץ מִצְרָיִם: פ

そして彼は住んだ、パランの荒れ野に。そして彼の母はとった彼に。彼の妻を、エジプトの地から。

以上、創世記 21:9-21 の直訳を行った。その際、**נַעַר** と **יְלִד** については、使い分けられていることを示すために、あえて訳語をつけず、ヘブライ語の「音」のまま提示した。この物語を通して、一般的に若者や子どもと翻訳されてきた **נַעַר** と **יְלִד** が明確に使い分けられていることに私たちは気づくのである。それでは、ヘブライ語において、**נַעַר** と **יְלִד** はどのような用語であり、どのように用いられているのであろうか。

3. **נַעַר** と **יְלִד** について

ヘブライ語聖書において「子ども」と一般的に用いられる言葉は、**נַעַר** と **יְלִד** である。この言葉は従来、「若者」と「子ども」と日本語において翻訳され、年齢区分と

16 越後屋は神がハガルの目を開かれることについて、「それまで見えなかった物を認識できるようになるということ。井戸が突然出現したということではなく、それまでハガルは気づかなかったのである」と述べる（越後屋、1996: 60）。確かに私たちが目の前にあることを気づくかないこともあるが、神が目を開く行為は単に認識の問題ではなく、その人個人に起こる劇的な変化であると言えよう。

して考えられてきた。しかし、フィリップ・アリエスによる研究から、文化、時代によってその理解は異なることが指摘されてきた¹⁷。従来、日本語で翻訳されてきた、年齢区分として **נַעַר** と **יָלֵד** は翻訳されうるのか。アリエスの研究以降、聖書における子どもの捉え直しが行われ、この点について研究されてきた¹⁸。そこで、改めて旧約聖書中に現れる **נַעַר** と **יָלֵד** について分析を行いたい。その際、これらの用語が聖書のどのような文脈で用いられているかについて重視する。また、これらの用語は女性形もあるが、創世記 21:9-21 において **נַעַר** と **יָלֵד** は男性単数形で用いられていることから、ここでは男性単数形を中心に考察したい。また、この分析は概要のみとし、詳細な分析については後日に譲りたい。

3.1. **נַעַר** について

נַעַר は男性名詞として 239 回登場する。日本語の訳語としては、「少年」、「若者」、「従者」等様々に翻訳されている。通常 **נַעַר** は思春期以降の幅広い意味で用いられたと考えられてきた¹⁹。しかし、この語についてその後、多くの研究者が年齢区分を指しているのではないことを指摘する²⁰。ここで改めて **נַעַר** が登場する聖書箇所を確認したい。しかし、239 箇所すべてを紙幅の関係上ここでは述べることができないので、特徴的な箇所を取り上げることとする。

出エジプト記 2:6 には、男の子（モーセのこと。ただしまだ物語上では名付けられていない）が川に捨てられてファラオの王女に助けられた時に用いられている。6 節「開けてみると赤ん坊（イエレド）がおり、しかも男の子（ナアル）で泣いていた」（新共同訳²¹）。ここでも創 21:9-21 の物語と同じく、明確な意図をもって **נַעַר** と **יָלֵד** が使い分けられていることが分かる。

士師記 13:1 以下は、サムソンについて語られる。サムソンの母は不妊の女（士 13:3）と呼ばれていた。13:5「あなたは身ごもって男の子（ベン）を産む。その子（ナアル）は胎内にいるときから、ナジル人として捧げられている」、7 節「ただその肩は、わたしが身ごもって男の子（ベン）を産むことになっており、その子（ナアル）は胎内にいるときから（以下略）」、8 節「そこでマノアは主に祈った（中略）生まれてくる子（ナアル）をどうすればよいか教えてください」、24 節「この女は男の子

17 神学研究 66 号（2019 年）に拙稿、「ヘブライ語聖書における子ども研究の動向」でこの点を述べている。

18 Naomi Steinberg, Shawn W. Flynn, Milton Eng ら。

19 Wenham, 2015: 83。

20 この議論については、Steinberg, 2015: 28-32 に詳細に述べられている。たとえば、扶養下にあるか、召使いであるか、あるいは、父母からの継承を待つ存在か、独立困難な状態を指すか等。

21 以下、聖書の日本語翻訳は特段の表示が無い限り新共同訳とする。また（）内は筆者の補足説明とする。

(ベン)を産み、その名をサムソンと名付けた。子(ナアル)は成長し、主はその子(接尾辞:直訳「彼」)を祝福された」。עַרが年齢区分を指すのであれば、母の胎内にいる時をもその範囲とすることになる。

サム上1章はサムエルについて述べられている。サムエルの母ハンナは6節「主はハンナの胎を閉ざしておられた」とあるように不妊の女であった。20節「月が満ちて男の子(ベン)を産んだ。主に願って得た子ども(接尾辞:直訳「私は得た彼を。神から」)なので・・・」、22節「この子(ナアル)が乳離れしてから、一緒に主の御顔を仰ぎに行きます。そこにこの子(接尾辞:直訳「彼を」)をいつまでもとどまらせましょう」。ここではבןとעַרが使い分けられている。また、ハンナが自分の子であるサムエルをעַרと認識していることが分かる。

列王記下4章ではエリシャが子どもを生き返らせる奇跡が記される。その際、シュネムの裕福な家の子どもをさして、עַרとבֶּןִיָּגָדが用いられている²²。エリシャはシュネムの裕福な家に子どもを与える(17節)。しかし、この子どもは突然死んでしまう。母親はエリシャを探し彼のもとへと行く(25節)。子どもが死んだことを訴える彼女とエリシャのやりとりの中でעַרが用いられる。29節「おまえはわたしの杖をその子ども(ナアル)の顔の上に置きなさい」、30節「その子ども(ナアル)の母親が・・・」、31節「ゲハジは二人より先に行き、杖をその子ども(ナアル)の顔の上に置いたが、(中略)子ども(ナアル)は目を覚ましませんでしたと告げた」。ここでも意図的な使い分けがなされていることがわかる。

このように、עַרという用語が単に年齢区分を指しているとは言えない。そのほかにもעַרが用いられている箇所があるが、紙幅の関係上ここまでとしたい。

3.2. בֶּןִיָּגָדについて

בֶּןִיָּגָדは男性名詞として43回登場する。日本語の訳語としては、「子ども」、「男の子」、「若者」、「少年」等様々に用いられている。通常בֶּןִיָּגָדは少年期までの意味で用いられたと考えられてきた²³。しかし、多くの研究者が年齢区分を指しているのではないことを指摘するのはעַרと同様である²⁴。ここで改めてבֶּןִיָּגָדが登場する聖書箇所を確認したい。

族長物語においてבֶּןִיָּגָדと認識されるのは、イサク(創21:8)、イシュマエル(創21:14等)、ヨセフ(創37:30等)、ベニヤミン(創44:20)である²⁵。

22 בֶּןִיָּגָדについては後述。

23 Wenham, 2015: 83.

24 この議論については、Steinberg, 2015: 32-39 参照

25 同様にイサク、イシュマエル、ヨセフ、ベニヤミンはעַרとも呼ばれている。この点については今後の研究課題としたい。

また、出エジプト記 2:3、6-10 では 3 節「アスファルトとピッチで防水し、その中に男の子（イエレド）を入れ」、6 節「開けてみると赤ん坊（イエレド）がおり、しかも男の子（ナアル）で泣いていた。王女は不憫に思い、これはきっと、ヘブライ人の子（イエレド）ですと言った。」、7 節「この子（イエレド）に乳を飲ませるヘブライ人の乳母を呼んで参りましょうか。」、9 節「娘は早速その子（イエレド）の母を連れてきた。」、10 節「その子（イエレド）が大きくなると、王女の元へ連れてきた。」と記される。6 節において **נער** と **יָלֵד** が用いられたあとは、この子は一貫して **יָלֵד** と語られている。ここにおいても、**נער** と **יָלֵד** とが使い分けられている例と言えよう。

列王記下 4 章は **נער** の項でも取り上げたがエリシャが子どもを生き返らせる奇跡が記される。ここでも、**נער** と **יָלֵד** が使い分けられている。エリシャはシャネムの裕福な女が突然訪問してきた際（25 節）、子どもの安否については当然知り得ない。そのため 26 節「お子さん（イエレド）はお変わりありませんか」とゲハジに問うよう語る。しかし、シャネムの裕福な家の妻は 28 節「私があなたに子ども（イエレド）を求めたことがありますか」と、もう亡くなっている子どもについて語る。エリシャはこの家へと戻り、34 節「エリシャは寝台の上に上がって、子ども（イエレド）の上に伏し、自分の口を子ども（接尾辞：直訳「彼の」）の口に、目を子ども（接尾辞：直訳「彼の」）の目に、手を子ども（接尾辞：直訳「彼の」）の手に重ねてかがみ込むと、子ども（イエレド）の体は温かくなった」と奇跡を起こす。**יָלֵד** は死んでいる子どももその意味範囲にあることが分かる。

3.3. まとめ

ここまで **נער** と **יָלֵד** を見てきた。この用語の違いについて、越後屋は、「神との関連ではナアル、アブラハムとハガルとの関連ではイエレドが使われているとも言えよう」と述べるが²⁶、その使い分けについては説明しない。水野は子どもの使い分けがなされていることを指摘し、アブラハム、ハガルはイシュマエルのことをイエレドと述べていることから、実は両親が思っていたよりも成長しており、サラはその成長を望んでいなかったと語る²⁷。トリブルは、「追放と荒れ野以前は、名詞「息子」と「少年」が彼を同定する。死の危険にあっては、名詞「子ども」だけが彼を同定し、この設定以外では用いられない。危険が去ると、名詞「少年」が再び現れ、5 回に及ぶ」と述べ²⁸、この使い分けについて年齢というよりは、子どもの状態、すなわち生存の危機にあるかないかで判断する。

26 越後屋、1996: 60。

27 水野、2006: 313。

28 トリブル、2009: 89。

これらのことから、נערとילדは一定の意図をもって使い分けられていると考えてよいだろう。しかし上述してきた通りנערは年齢区分を指しているとは考えにくいですが、一見するとילדは年齢区分を指していると理解してもいいように思われる。しかし、族長物語でのイサク、イシュマエル、ヨセフ、ベニヤミン、さらにはモーセやシャネムの裕福な家の子どもなどの家族関係に着目すると、ילדは家族の一員として捉えていることに気づく。Revell は、これらの用語の違いについて、ילדは家族の一員として捉えている用語であり、נערは家族との関係に着目しない用語であると指摘する²⁹。נערとילדが登場する物語の文脈から、この Revell の指摘は正しいように思われる。次に、この指摘に基づき、創世記 21:9-21 の物語を改めて見てみたい。

4. 創世記 21:9-21 の再解釈

それでは、イシュマエルを指して使い分けられているנערとילדについて誰がどの用語を用いているのか整理したい。なお、בןについての詳細な議論については今後に譲りたい。

	בן	נער	ילד
サラ	9、10*3		
語り手	11	19、20	
エロヒーム	13	12、17、18	
アブラハム			14
ハガル			15、16

このように、サラはイシュマエルのことをנערとילדとも語らずに、ただ単にבןと述べているだけである³⁰。サラはイシュマエルについて、家族の関係にあることすら議論の対象としたくなく、これらの用語を用いない。一方、アブラハムとハガルはイシュマエルについてנערと認識せずילדと認識している。語り手、エロヒームはילדとは認識しない。

これを物語の流れからנערとילדの用いられ方どのように変化してくのか見てみたい。エロヒームの認識は最初からנערであり（12節）、בן（13節）である。アブラハムはイシュマエルをילדと呼び（14節）、ハガルもまたそのように捉えている（15

29 Revell, 1996: 31-32.

30 בןについては男性単数形だけでも 2167 回用いられており本稿については分析の対象外とする。ただし、創世記に用いられている箇所を調べてみると、両親との関係を示す用語であることがわかる。Revell も בןについて「両親との関係を示す」と述べている。

節、16節)。しかし、エロヒームは一貫して **עַרְוֹ** である (17節)。ここで注目したいのは19節である。ここでは、エロヒームがハガルの目を開かれると、ハガルは井戸を見つけ、さらには、その水を飲ませたと語り手は語る。この箇所は、ハガルのイシュマエルへの認識が変化したとも読み得る³¹。つまり、ハガルの目が開かれた結果、ハガルはイシュマエルを **עַרְוֹ** とやむなく受け入れたとも読むことができるのだ。

上述した **עַרְוֹ** と **בְּנֵי** の用語の違いから考えると、アブラハムとハガルはイシュマエルを家族の一員として捉えていたが、エロヒームは物語の当初からイシュマエルをアブラハムの家族の一員として認識していないことが分かる。イシュマエルはアブラハムの子どもではあるが、アブラハムに約束した「子孫」ではないのだ (創 12:7)。ハガルはアブラハムとの実子であるイシュマエルを **עַרְוֹ** と受け入れることは到底できない。アブラハムの長子は女奴隷の子であってもイシュマエルでありアブラハムの財産を受け継ぐことができるからだ。しかし、ハガルの目が開け、ハガルはイシュマエルが **עַרְוֹ** であることを受け入れた。創世記 21:9-21 はハガルがイシュマエルを **עַרְוֹ** だと認識する物語と言えよう。

5. まとめ

今回、旧約聖書における子ども理解ということで創世記 21:1-9 を取り上げた。現代を生きる私たちは、子どもを様々な場面において年齢で捉える。その最たる例は学校教育である。幼児施設は5歳まで、小学校は6-12歳まで、中学校は13-15歳まで、高等学校は16-18歳まで、大学等は19歳以上といった具合に。また児童福祉法では乳児は1歳未満、幼児は1歳から小学校就学の始期に達するまで、少年は小学校の就学の始期から18歳に達するまで、である。また、エリクソンは8つの発達段階を設定し、それぞれの発達段階において獲得するのにふさわしいものがあるとした。

このように、私たちは子どもだけでなく、様々な中で年齢区分で考えようとする。しかし、私たちは多様で、画一的な存在は誰一人いない。年齢区分や発達段階で考えると、その枠の中に収まらない子どもがいることもまた事実である。年齢という枠に閉じ込められない子ども理解をなすことで、「子ども」はより自由になるのではないだろうか。

子どもを子どもとするのは、子どもと乳幼児の関係を見つめること、子どもと青年との関係を見つめることの中でしか理解し得ない³²。このように考えると、ヘブライ語の子どもという用語もまた、だれかとだれかとの関係を示す用語であり、その関係

31 水野、2006: 313。

32 宮盛邦友、2013: 187。

性から解釈する必要があるのではないか。その結果、聖書の読みや、キリスト教保育における子ども理解、さらには、人間理解をも変化する可能性があるのではないか。今回は、創世記 21:1-9 の物語のみを取り上げたが、今後、さらに研究対象を広げ、旧約聖書に示される子ども理解を探りたい³³。

参考文献

- 岩野祐介、2018年 〈人権研究〉人権概念の受容と日本プロテスタント・キリスト教：内村鑑三のルター受容とルター批判、神学研究 65号。
- C・ヴェスターマン、1993年 『コンパクト聖書注解 創世記Ⅰ』、教文館 (Westerman, Claus, *Anfang, 1 Mose (Genesis), Teil 1: Die Urgeschichte, Abraham (Kleine biblische Bibliothek)*, Neukirchenvluyn: Neukirchener Verlag, 1986)。
- 越後屋朗、1996年 「創世記 12:1-25:11」、『新共同訳旧約聖書注解Ⅰ』、日本基督教団出版局。
- J・C・L・ギブソン、1995年 『創世記Ⅱ』(加藤明子訳)、新教出版社 (Gibson, John C. L. *Genesis: The Daily Study Bible. The Saint Andrew Press*, 1982)。
- フィリス・トリプル、2009年 「祝福の始まりは不吉な始まり」『ハガルとサラ、その子どもたち』Ph. トリプル・L. M ラッセル編、日本基督教団出版局 (Edited by Phyllis Triple and Letty M. Russell, *Hagar, Sarah, and Their Children Jewish, Christian and Muslim Perspectives*, Westminster John Knox Press, 2006)。
- 橋本祐樹、2020年 〈人権研究〉キリスト教と人権：神学的人権論の類型と D. ボンヘッフアーの理解をめぐる一考察、神学研究 67号。
- 水野隆一、2006年 『アブラハム物語を読む』、新教出版社。
- 宮盛邦友、2013年 教育理念としての「子どもと発達」理解、北海道大学大学院教育学研究院紀要 119号
- Goldingay, John, 2020 *Genesis, Baker Commentary on the Old Testament: Pentateuch*, Baker Academic
- Revell, E. J., 1996 *The Designation of the Individual: Expressive Usage in Biblical Narrative*, Kampen: Kok
- Steinberg, Naomi, 2015 *The World of The Child in The Hebrew Bible*, Sheffield Phoenix Press
- Wenham, Gordon John, 2015 *Genesis 16-50 Word Biblical Commentary Volume 2*, Zondervan

33 当日の神学研究会で指摘された点、例えば「族長物語においてもそのような使い分けが説明できるのか」などについては今後の課題としたい。

【ABSTRACT】

Understanding Children in the Old Testament (Genesis 21:9-21)

INOUE Satoshi

This article will focus on Genesis 21:9-21 to explore the Old Testament's understanding of children. This passage is a short story that describes Hagar and Ishmael. However, in this story, two Hebrew terms (נַעַר and יָלֵד) are used to describe “children” in general. We can assume that these two terms were clearly interchangeable.

We therefore begin with a literal translation of Genesis 21:9-21. The reason for the literal translation is to clarify the personification, flow, and unique structure of the narrative in Hebrew. Next, we identify how the terms נַעַר and יָלֵד, which are translated as “children,” are used in the Old Testament. Finally, from these analyses, we will reinterpret the story of Genesis 21:9-21 and examine how its reading changes.

The terms commonly translated as “children” in Hebrew are נַעַר and יָלֵד. For example, נַעַר is used in Judges 13:1 ff. In this passage, נַעַר is used in the following verse: “From the time that he was in the womb”. If נַעַר refers to an age category, then it would include the period from the time one is in the womb. On the other hand, יָלֵד seems to refer to an age category, but if we focus on family relationships, it seems to indicate a relationship rather than an age category.

The result of this analysis of the two terms is that נַעַר and יָלֵד are terms that have traditionally been thought to refer to age categories, but are terms that refer to the relationship with the father. If this is correct, then the story of Genesis 21:9-21 is not only the story of the expulsion of Hagar and Ishmael from Abraham's house, but also the story of Hagar's awareness of Ishmael's expulsion from Abraham's house.

In this study, we have covered only the story of Genesis 21:9-21, but we would like to continue to cover other passages in which נַעַר and יָלֵד are used to explore the Old Testament's understanding of children.